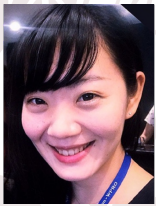


# WHO 西太平洋地域事務所 顧みられない熱帯病(NTD)対策 -NTD根絶を目指して-



長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科/熱帯医学研究所

佐々 美保

名古屋大学卒業後、2017年10月から長崎大学熱帯医学  
・グローバルヘルス研究科/熱帯医学研究所に所属

## はじめに

本報告は、2019年1月から6月の半年間、顧みられない熱帯病対策(Neglected Tropical Diseases)の現状を学ぶため、World Health Organization, Regional Office for the Western Pacific(世界保健機関 西太平洋事務局、以下WPRO)にてインターンシップを行ったものです。インターンシップを通して、他分野との連携が一段と求められている顧みられない熱帯病対策の現状を再認識し、自らの顧みられない熱帯病に対する思考を180度変えるとともに、対策にける情熱を一段と高めることができました。その活動の一端を簡単にご紹介します。

## 背景

筆者は、住血吸虫というNTDsの1つである感染症について研究しています。2018年に行ったケニアでの研究活動を通し、顧みられない熱帯病がいかにして顧みられていないのか、その理由と困難を極める対策に直面しました。その経験

を踏まえ、保健分野で世界を先導するWHOがどのような役割を担い、対策を推し進めていくのかを学びたいと考え、WHOインターンシップの応募を決意しました。希望通りのNeglected Tropical Diseases(NTDs), Malaria, other Vector-borne and Parasitic Disease Unit, Division of Communicable DiseasesのNTDs担当官のもと、インターンを行う機会を得ました。

## WHO 西太平洋事務局の概要

WHO西太平洋事務局は、世界に6つある地域事務局の1つであり、37の国と地域、そこに住む19億人を対象とし、グローバルなイニシアチブを西太平洋地域における特有のニーズ・課題を反映しながら地域計画に変換していく役割を有します。現在の重点は、感染性疾患、健康保障と緊急対応、非感染性疾患、保健セクター開発、そして太平洋地域の技術支援です。フィリピンの首都マニラに所在し、2019年2月から葛西健先生が事務局長を務められています。

## 顧みられない熱帯病の動向

「顧みられない熱帯病」とは、アジア・アフリカを中心として蔓延している20の熱帯病を指します。衛生状態や生活環境と深く関わるものが多く、貧しく社会的な弱者の間に蔓延しているため、これまで国際的に顧みられてこなかった疾患です。健康ばかりでなく、疾患に伴う経済的負担、偏見などの人権問題や社会問題を誘発しています。患者の多くが貧困層であるため、治療薬の開発をはじめとした対策が進まないといった状況がありました。しかし、NTDの多くは予防、そして根絶が可能です。たとえば日本では、かつて蔓延していた土壌伝播線虫、フィラリア症、住血吸虫症の撲滅に成功しています。予防、根絶ができる病気でありながら、世界では苦しんでいる人たちがいます。これを改善しないかぎり、国連が掲げる2030年までにUniversal Health Coverageを達成するという目標には到達できません。

NTD対策の現状として、2017年に世界でNTDの治療を受けた人数は10億人を超え、ほとんどの薬が製薬会社によって寄付されています。

WPROでは、全20疾患のうち15疾患が28の国と地域で蔓延しています。特に過去20年間にわたる対策により、多くの進歩とともに疾患の排除に成功してきました。更なるNTD対策の発展にむけ、2018年にRegional Action Framework for Control and Elimination of Neglected Tropical Diseases in the Western Pacificが



WHO/WPRO 局長 葛西健先生と(筆者右から4番目)



① Bi-regional meeting (ジャカルタ) で文献検討、メタアナリシスの結果を発表 (筆者発表中)  
 ② MVP スタッフと (筆者左から4番目) ③ インターンと (筆者中央)

WPRO 加盟国によって採択されました。

## インターンシップの内容と成果

インターンシップの仕事内容は、インターンシップ開始時に担当官と話し合っ  
て決定しました。半年間で多岐に渡る業  
務に従事しましたが、一番大きな仕事は  
顧みられない熱帯病の1つである住血吸  
虫症の診断方法についての文献検討とメ  
タアナリシスでした。日々の業務をこな  
しつつ3ヶ月かけて文献検討と解析を行  
い、得られた結果を2019年3月にイ  
ンドネシアのジャカルタで開催された  
WHO Regional Office for the South  
East Asia (SEARO) と の Bi-regional  
meeting で発表を行いました。会議で  
の発表に向けて、担当官と幾度ももた  
り議論を重ねて発表内容を決定してい  
きました。また、この会議には準備段階  
から関わらせていただき、SEARO との毎  
月のテレビ会議に参加し、会議の演目や  
タイムテーブル作成を手伝い、会議当日  
は書記と発表、会議終了後は会議レポ  
ート作成という、会議の準備から報告ま  
で、一通りのプロセスを経験することが  
できました。会議では各国から政府の  
担当官、各国 WHO の担当官、CDC、  
研究者そして WHO 本部の担当官が  
出席し、活

発な議論が展開されました。現在の  
各国の状況をふまえ、今後の住血吸虫  
症対策を推し進めるためにどのような  
研究が必要か明確になりました。そし  
て、アジア全体で住血吸虫症の根絶に  
向けた目標が共有されました。この  
会議を通して WHO の会議が目的を達  
成するために如何に緻密に準備されて  
いるのかを学びました。それだけでな  
く、会議参加者にも有益な会議となる  
よう、常に新しい科学的根拠や情報  
を提供するように会議内容が構成され  
ていました。

インターンシップでは、このほかに  
も WPRO が年に2回発行している WPRO  
NTD News Letter の編集・作成、各  
種書類作成補助、データのサマライズ  
や解析、ガイドライン作成補助など、  
担当官と相談し、フィードバックを得  
ながら業務に取り組んでいきました。

## おわりに

インターンシップを経験して、顧み  
られない熱帯病は根絶すべき、そして  
できる、と強く信じられるようになった  
とともに、国際機関にしかできない大  
きな役割があることを学びました。特  
に WHO は保健・医療の専門機関とし  
て科学的根拠に基づいた国際基準の設  
定や枠組みの構築を担っています。こ  
れらの国際基準、

枠組みを土台として、西太平洋地域、  
世界全体を俯瞰しながら、必要に応じ  
て各国を技術的にサポートし、支えて  
いることを学びました。日々の業務に  
加え、数多くの会議への参加を通して  
、世界中の研究者と接し、最新の知見  
を得る機会にも恵まれ、知的好奇心を  
刺激され、NTD により一層魅了され  
ました。インターンシップ前は、ケニ  
アでのフィールド経験から、顧みられ  
ない熱帯病がいかんにか、その理由と  
困難を極める対策を目で見て知り、  
NTD の排除を遠く長い道のりと感じ  
ていた筆者でした。しかし、半年間の  
インターンシップ中に WHO のビジョ  
ン、戦略を深く知り、担当官の各国  
を支援するための日々の活動を間近  
でみることを通して、NTD に対する  
考えが180度変わり、NTD 排除に  
向けて貢献したいという情熱が強くな  
りました。

筆者は、この半年間の経験を反芻し  
ながら、今後どのように NTD 対策に  
貢献していけるのか、再考していきます。

最後に、今回の活動を終始支えてく  
ださった担当官の矢島綾先生をはじめ  
、WPRO MVP チームの皆様、(公社)  
日本 WHO 協会様、文部科学省トビ  
タテ留学 JAPAN 様、その他関係者  
の皆様にご場を借りて厚く御礼申し  
上げます。